



鹿児島県言語聴覚士会ニュース

巻頭言 失語症支援者養成委員 高吉 進

今号目次

巻頭言	1ページ
研修記	2-3ページ
参加記	4-5ページ
新人紹介	6-7ページ
事務局通信	8-9ページ
地域局 社会局(広報)	10ページ
社会局 (公共事業・保険) 学術局(成人)	11ページ
学術局(小児) 学術局(新人)	12ページ
学術局 (生涯学習)	13ページ
財務局 編集男誌	14ページ


コロナウイルス感染が拡大しており、会員の皆様におかれましても何かと忙しい日々をお過ごしのことと思います。様々なイベントが中止や延期になっており、一日でも早くコロナウイルス感染が終息して欲しいと願う今日この頃です。

さて、今回は令和2年度から、鹿児島県で開催される失語症者向け意思疎通支援者養成講習会のご紹介をします。この講習会は失語症者の日常生活や支援の在り方を理解し、失語症者と1対1の会話ができ、さらに日常生活上の外出場面において意思疎通の支援を行うことができる「失語症者向け意思疎通支援者」を養成することを目的として実施します。

対象者は鹿児島県在住で失語症者の福祉と理解に熱意があり、講習会終了後、鹿児島県内で失語症者の意思疎通支援等に継続して関わって頂ける方です。要するに、失語症者の社会参加に貢献したい方を募集します。

講習会の事業実施主体は鹿児島県、事業運営主体は鹿児島県言語聴覚士会です。現在、鹿児島県言語聴覚士会の会員で構成した失語症支援者養成委員を中心に講習会の開催に向けて準備をしています。開催時期は8月から開始し、全日程は9日間(全40時間)実施する予定です。また、講習会に先立ち、失語症を周知して頂けるように公開講座を7月に開催します。

今後、鹿児島県言語聴覚士会のホームページに講習会や公開講座の案内文を随時掲載していく予定です。本事業を通して、失語症の社会的認知度を上げ、失語症者が社会参加しやすい環境作りに会員の皆様にもご理解・ご協力を頂けると幸いです。



坂の長さ危険!!

第9回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会長崎大会

みなさんこんにちは。世間の混乱に影響されずに、今年も香りの良い梅の花から桃・桜へと開花のバトンパスを感じる季節となりましたが皆さまいかがお過ごしでしょうか。

さて、私は令和2年1月18日19日に長崎市で開催されました第9回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会長崎大会に参加してきました。今回は諸事情があり自動車で長崎市に向かいました。熊本港から島原外港へ船で渡り、途中の南島原市で用事を済ませ、ドライブを楽しみながら長崎市へ到着しました。会場の長崎大学医学部坂本キャンパスは坂の多い長崎らしく、小高い場所にありましたが、路面電車を降りてから徒歩でも行けるアクセスの良い会場でした。2日間の学会の様子と感想をお伝えしたいと思います。

今回の大会のテーマは『言語聴覚療法のすべて ~つなぐ役割、つながる未来~』でした。学会長の田上由貴子先生のお言葉では、「小児から高齢者まで住み慣れた地域で自分らしく生活ができるようにという施策の中で、STやその支援を必要とする方々を取り巻く事情は目まぐるしく変化している、そんな中でも多岐にわたる言語聴覚療法の基本を見つめなおし、次世代へのバトンを繋いでいこうという思いで企画」されたそうです。一般演題60、基調講演1、実践セミナー1、教育講演2、専門講座2、ランチョンセミナー2、市民公開講座2部という盛り沢山の内容で、地域包括ケアに関する事、成人・小児領域でのコミュニケーション・教育・嚥下・高次脳機能に関する幅広い内容でした。大会のテーマ通り多領域での発表・講演では、講師や座長、またフロアからのメッセージを次世代のSTに繋ごうとする様子を多く見ることができました。講演・セミナーでは会話をを用いた言語聴覚士のアプローチ、原因に基づく嚥下障害の治療法、難聴は高齢者に何をもたらすか、介護予防分野におけるSTの役割等について聴くことができました。

私自身のこれまでの臨床を振り返り、多くのことを気づき学ぶことができました。また、当事者・家族の会を知る意味では市民公開講座も興味深く、多くのメッセージが投げかけられたものと感じます。これからの言語聴覚士・職能団体が取り組んでいくヒントが得られたのではないのでしょうか。学びと交流の多い2日間を過ごすことができ、素晴らしい大会でした。



長崎県言語聴覚士会・長崎大会実行委員の皆様、有り難うございました。また、今回の大会でも鹿児島から新卒者を含む演題発表があり嬉しく感じました。発表された皆さん、共同演者・指導されたSTの皆さんお疲れ様でした。平成28年に開催された鹿児島大会では『育成』でしたが、その成果は参加され方の地域や学会などでの活躍、県士会運営をみても得られていると実感しています。

今回は福岡大会です。令和3年1月23日から2日間、国際会議場（北九州市）にて開催されます（大会長：佐藤文保先生）。本学術集会のテーマは「一人ひとりのコミュニケーションを支える～言語聴覚士としての責務～」です。多くの鹿児島県ST仲間の参加を期待しています。

最後に、私は学会に参加する時はできるだけ、ご当地の美味しいものを食べるようにしています。長崎では迷わず人気中華料理店に入り、棒棒鶏、麻婆豆腐、餃子、炒飯、黒椒牛柳、油淋鶏…、おいしい料理をビールと長崎のお酒で愉しみました。学会以外にも、開催地域の料理・文化に触れ、STと交流することはとても大切です。私は十数年間九州地区学会で発表・参加をし続け、県外を含め刺激しあえるST仲間と出会うことができました。振り返ってみて参加し続ける大切さを楽しみじみと感じています。私は十年間県士会の理事として活動してきましたが、今年度いっぱい理事を抜け後輩にバトンを託し、新しい取り組みを始めることになりました。立場は変わりますが会員として今後も学会・研修会・交流会に参加していきたいと考えています。理事として最後の仕事を作ってくれた広報局・編集部に感謝いたします。

鹿児島医療センター
田場 要



第36回 鹿児島市民健康まつり

令和元年11月10日に第36回鹿児島市民健康まつりが開催されました。ST県士会も毎年参加をさせていただいております。

市民健康まつりとは鹿児島市医師会病院をはじめ10団体からなる市民健康まつり実行委員会が中心となり、毎年市民の健康促進を図るべく各団体の特徴を生かしたイベントを開催しています。この活動において、言語聴覚士会は15の協力団体の一つとして活動を行なっています。

今回は、9名の県士会会員の協力者にてSTブースは小児リハ教材展示・音響分析・簡易聴覚検査・簡易嚥下機能検査・各種相談・STについての広報を行いました。参加者は1年目の方から5年目、10年目と様々な経験者の方に協力をしていただき、参加者への接し方、傾聴の仕方を勉強する事ができ、ST間のコミュニケーションが取れる場ともなりました。

まつりは、開場と共にSTブースに足を運んでくださる参加者もいらっしやり、1日を通し、STブースへ来場された方は、およそ180名でした。その中でも、小児リハ教材へ関心を持ってくださる方がとても多く、子供さん達はもちろんのこと、その親御さん、そしてSTを知らない方々が興味を持っていただけ、STの仕事を紹介する場ができたのではと感じました。音響分析では、普段経験の少ない自分の声を検査してもらい、目で声を見てみたいといった方から、声が出にくい・低くなった等の相談まで様々な方と一緒に声について考える機会が持てました。STスタッフとしても音響分析を多くの方に実施でき、勉強のできる機会となりました。

その中でとても嬉しい出来事として、数年前の健康まつりでも同じ音響分析を用いた検査を受けてくださった方が今年も来場して下さり、前回から声がどう変化したか、健康を維持できているか気になったので、再度受けてみたいと話され、検査を受けに来られる方もいらっしやいました。

STの活動が少しずつではあるとは思いますが、着実に地域の方にSTとは何か。声について。飲み込みについての健康に意識される方が増えていると感じました。



相談内容として特に多かった内容が聴覚分野の相談でした。参加者は年齢層が高い事もあり、聞こえにくさ、家族が聞こえにくい等の相談が多く寄せられました。聴覚分野への不安が多く聞かれ、言語聴覚士に相談をしてくださる方が多くいらっしゃる中、聴覚分野に携わるSTがまだまだ少ない事が現状だと感じています。そのため、参加者に十分な助言ができなかった事も多々ありました。また、聴覚分野に対して、医療が不十分と感じていらっしゃる方からのご意見も頂きました。現在、県士会活動を通し私自身、聴覚分野に対するニーズの多さ、それに対応が間に合っていない現状があると痛感しました。

嚙下に対する相談も多く寄せられ、特に家族の事についての話をされる方が多い様子でした。踏み込んだ話・相談は今回できない環境でしたが、在宅や医療共に家族の嚙下に対して悩まれている方、困っている方が多く存在している事を実感しました。STブースには閉場ギリギリにも滑り込みで相談に来られる方、長い時間熱心に声について勉強してくださる方、相談していく中で、笑顔になり帰って頂ける方が多く見受けられました。

今年は、例年よりSTブースへの来場者が多く今後の展望も考える事の出来た会となりました。また、1年目の方々からは、参加出来て良かった、勉強になりました。などのご意見も後日に頂きました。臨床では体験できない、STとしての仕事がこの鹿児島市民健康まつりでは、多く体験でき、今後の臨床にも活かせるのではないかと感じました。

この活動は年に一度、毎年開催されます。今回、御都合により参加出来なかった会員の方も是非、今後のご参加・ご協力を頂けると幸いです。

最後にご参加・ご協力の頂いた会員の方々、本当にありがとうございました。

ひまわり病院
当房 裕幸



新人紹介 NPO法人にじ 子供発達相談センター みんなのおうち 奥 徹平

私は平成31年3月に鹿児島第一医療リハビリ専門学校を卒業し、現在は肝付町にあるNPO法人にじこども発達相談センターみんなのおうちで言語聴覚士として勤務しています。当事業所は、児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業を行っています。療育内容としましては小集団療育・個別療育を行っています。また、遠足やクリスマス会などのイベントも行っており、園や小学校とは違った様々な経験を積むことができます。

入職した当初は分からない事が多く、利用児さんとの接し方や小集団での動き方など臨床的な部分はもちろん、基礎的な部分も勉強不足だと感じていました。ですが、先輩方からのご指導や臨床経験を積み重ねていく事により、徐々にわかることが増えていきました。現在でも、勉強不足で分からない事が多々ありますが、少しずつ成長していると実感しています。

私は主に個別療育に携わらせて頂いています。初めは緊張などで動揺してしまい、利用児さんにも緊張が移ってしまうことが多々ありました。現在では信頼関係を築き、自信をもって利用児さんとコミュニケーションをとっています。訓練では利用児さんの好みに合った教材や訓練意欲が高まるような教材を作っています。ですが、必ずしも効果が得られる訳ではなく、利用児さんに合わない場合もありますが、その都度試行錯誤して作っています。また、訓練の最後には利用児さんの好きな課題で訓練を終わらせることで、次もまた来たいと思うような工夫も行っています。

私がこの仕事でやりがいを感じることは、利用児さんの成長が目に見えてわかることです。私が入職した当初より、発音の向上や発話数の増加など、大きく成長した姿をみるとやりがいがあると感じます。また、保護者の方から感謝の言葉をいただいた時にはこの仕事をしていてよかったと思いました。

入職してからもうすぐ1年が経とうとしています。この1年で様々な事を学び、経験することができました。まだまだ勉強不足で言語聴覚士として経験も浅いですが、日々精進していきたいと思っています。



宮崎大学医学部附属病院難聴支援センター / 鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科 上江 愛

鹿児島市立病院耳鼻咽喉科（以下、当科）の耳科・難聴外来は、宮崎大学医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科の関連病院として2017年8月より耳鼻科専門医1名、言語聴覚士1名を配置しスタートいたしました。私は宮崎大学医学部附属病院難聴支援センターの所属で2019年4月より当院当科で勤務しております。当科は、本県唯一の人工内耳手術を行っている施設として難聴が疑われた児のほぼ全てが受診されます。当科STの役割としては、聴覚医学的な方針を立てることです。聴覚医学的な方針とは他覚的及び自覚的な評価から聴覚障害の種類・程度を判断し、補聴器及び人工内耳を代表とする人工聴覚器の必要性及び種類の選択を適切に行うことです。2017年8月にスタートして現在までに2900例の難聴支援を行ってまいりました。今後とも本県における難聴支援の中心として微力ながら尽力していきたいと思えます。

聴覚STの生業としては、研究・教育・臨床の3つを遂行していくことにあります。

研究面において宮崎大学と当科では主に成人及び小児人工内耳、一側性難聴、人工聴覚器装用下における語音聴取能評価について研究を行っております。その中でも聴覚評価はその症例の方針を決める大きな役割を担います。人工聴覚機器のソフト・ハード面の進歩は日々進んでおり、常に海外や先進医療の情報を把握しておく必要があります。当院での人工内耳装用例に対する語音聴取能評価の研究と、宮崎大学での骨導インプラントを用いた補聴器の有用性に関する研究は、人工聴覚器に関する国際学会にて教育セッションとして採択されるなど業績も挙げております。私も所属している当科・宮崎大学の名に恥じぬよう日々研究に勤しみ邁進してまいりたいと思えます。

次に教育面において当科では年間6名の実習生を受け入れ聴覚医学的な根拠に基づいた判断や評価を行ったうえでの結果の解釈はもちろん、考察力を高めることを一番の教育目標としております。補聴器や人工内耳装用例の聴覚医学的評価を行い、その必要性や問題の原因に対する考察を通して従来の人工聴覚器に対する常識や選択、手法が最適であるか今一度考え判断できるよう指導しております。実習生を受け入れる側として学生へは論理的な説明をすることで症例の理解と考察を深められるよう心がけております。

最後に臨床面では当科における症例に対しての最低目標は聞こえるようにする、聞こえるようになることであり、よりよい聞こえを提供することとしております。その上で生活する中での困難に対処でき、語音聴取能を高められるようにします。現状では成人及び小児の補聴器・人工内耳装用例に対して自覚的・他覚的な評価を行い、その結果に基づいて調整や方針の決定を行っております。特に小児人工内耳装用例においての補聴・語音聴取能評価はSTが行い、その後の言語発達面においては保護者への現段階の説明と目標を明確にして助言を行い保護者が主導となって指導していただく方針としております。聴覚医学的な根拠に基づいた判断が最適にできるよう日々知識を深めていきたいと思えます。

事務局通信

県士会ニュース 事務局

動向（10月～2月理事会）

10月

- ・ 第2回バリフリキッズフェスティバルについて後援することとした。
- ・ 災害時の会員安否確認について、今年度中に情報収集を行い次回総会までに確認するか否かを含め方向性を決めることとした。
- ・ 意思疎通支援者養成支援に関する助成金申請は来年度行うこととした。
- ・ 理事会会場を2020年1月より米盛病院にすることとした。
- ・ 2年会費未納者4名を退会扱いとした。

11月

- ・ 令和元年度鹿児島県医療推進協議会参加者を竹中と松尾とした。
- ・ 事務局保管文書について、災害時等の影響を踏まえcloud管理にすることが検討された（継続審議）
- ・ 地域ケア個別会議研修会について報告があった。
- ・ 12月専門講座、2月ポイント対象研修会の進捗状況が報告された。
- ・ 市民健康祭り参加報告があった。
- ・ 災害時の会員安否確認について、災害対策部で検討することとした。

12月

- ・ 地域リハビリテーション活動推進研修会の報告があった。
- ・ 鹿児島市地域リハビリテーション活動支援事業報告会の報告があった。
- ・ 専門講座について報告があった。
- ・ 2月ポイント対象研修会の進捗状況が報告された。
- ・ 3月新人教育研修の進捗状況が報告された。

1月

- ・令和元年度鹿児島県介護実習・普及センター運営協議会参加者を竹中とした。
- ・失語症者向け意思疎通支援事業について報告があった。
- ・口腔機能管理推進協議会について資料を作成した旨の報告があった。
- ・2月ポイント対象研修会の進捗状況が報告された。
- ・日本言語聴覚士協会活動支援金申請に関しては事務局で申請することとした。
- ・災害時の会員安否確認について災害対策部より報告があった。

2月

- ・遠隔地研修会等ネットワーク構築について提案がなされた。まずは鹿児島地区と離島の2地区間で同時研修会を進めていくこととした。窓口を松尾にすることとした。
- ・失語症者向け意思疎通支援事業について報告があった。
- ・2月ポイント対象研修会の報告があった。
- ・新人教育研修会の進捗状況が報告された。
- ・研修会申し込み後の返信メールに関しては、研修会日も記載し返信することとした。
- ・会員への案内についてSNSにて配信することが検討された（継続審議）

2月理事会承認 総会員数510名（正会員508名，賛助会員2名）

一般社団法人 鹿児島言語聴覚士協会 事務局
松尾康弘

地域局(鹿児島区担当)

今年度も一年間各地区での勉強会への参加、情報提供・県士会活動へのご協力等、本当にありがとうございました。今年度も終わりを迎え、まとめ・反省を行なっている地域局です。一年を振り返るとあっという間であり、しっかりとSTとして成長できたか不安もありますが、症例検討会や講習会などの勉強会に参加することでしっかりと知識を蓄え臨床に活かしていると日々感じております。今年度も各地区で様々な症例検討、講習会等があったかと思えます。参加する事で勉強もできますが、他施設のSTと親睦を深める事で、日々の臨床の疑問を直接質問できたり、相談できたりするので、大変有意義だと感じています。是非来年度も各地区主催の勉強会・イベント・行政活動等への積極的なご参加をお待ちしております。

しかし、皆さんもご存じの通り現在は、新型コロナウイルスが猛威を奮っており、様々なイベント勉強会が中止・延期となっております。鹿児島県は3月末現在（記事を作成しているのは、3月23日です）では、感染者は0名ですが、十分に感染対策を行い、今後も注意をしていかなければいけません。毎年年度始めには各地区にて懇親会があります。来年度は現在は未定であり、新型コロナウイルスの動向をしっかりと確認しながら、懇親会・勉強会の有無を検討していきたいと考えています。新型コロナウイルスの影響で先は不透明ですが、来年度は鹿児島国体・オリンピック等（開催されるかわかりませんが・・・）元気な催しが多くあります。鹿児島県言語聴覚士会も新型コロナウイルスや、大規模イベントに負けない様な勉強会を行なって行けたらと活動準備をしております。まずは、事態が落ち着いたら各地区で賑に懇親会で飲みにいけなかったストレスと発散させましょう。飲み会いや・・・勉強会でお会い出来ることを楽しみにしています。来年度もよろしく願いいたします。地域局一同。

鹿児島地区理事 當房裕幸

社会局(広報担当)

令和元年度もイオン鹿児島にて、「言語聴覚の日イベント」を9月1日の言語聴覚の日を開催させて頂きました。ご協力いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。県士会ホームページの改訂から約1年経ち、使い勝手についてなどいろいろお寄せいただいております。会員の皆様へスムーズな案内に繋げていけるよう今後も、改良を重ねていきたいと考えております。

今後も会員の皆様のご協力がますます必要となると考えておりますので、ご協力のほど何卒よろしく願いいたします。

鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科 小牧 祥太郎

社会局(公共事業・保険担当)

令和元年度も、例年通り公共事業として鹿児島県介護実習・普及センターと連携し、県内各地での介護講習会への講師派遣などを計9件行いました。保険関連では、施設基準に関する問い合わせが1件でした。

令和2年度の診療報酬改定においては、「多職種チームによる摂食嚥下リハビリテーションの評価」や「呼吸器リハビリテーション料・難病患者リハビリテーション料の実施職種への言語聴覚士追加」、「言語聴覚療法のみ実施する場合についての脳血管疾患等リハビリテーション(Ⅱ)の要件見直し」といった変更がなされ、不明な点も出てくるのが考えられます。診療報酬・介護報酬に関しましては、複雑な内容の問い合わせの場合、安易に答えられないため日本言語聴覚士協会に問い合わせてもらおうこととなりますが、疑問を持たれた点を県士会全体で共有するためにも、まずは気軽に県士会に問い合わせさせていただきたいと考えております。

日本言語聴覚士協会お問合せフォーム：<http://www.jaslht.or.jp/form.html>

垂水市立医療センター垂水中央病院 リハビリテーション室 竹中恵太
Tel 0994-32-5211 Fax 0994-32-5722

学術局(成人)

平素より鹿児島県言語聴覚士会の活動にご参加いただき、誠にありがとうございます。成人学術局担当の加治佐彩です。

成人学術局では令和2年2月9日に介護老人保健施設マロニエ苑リハビリテーション室の黒羽真美先生をお招きし、「これからの言語聴覚士ー医療・介護・福祉の垣根を越えてー」というテーマで研修会を行っていただきました。ライフステージをふまえた言語聴覚療法や現在の制度、制度改革と言語聴覚士への影響、医療現場のSTに求められている役割や地域での役割など多岐にわたる内容でお話しして頂きました。ご参加頂いた会員の皆様、ありがとうございました。次回は令和2年5月17日に国際医療福祉大学成田保健医療学部言語聴覚学科の倉智雅子先生をお招きし、摂食嚥下障害についての研修を行う予定で準備を進めております。沢山のご参加をお待ちしております。よろしくお願い致します。

社会医療法人 聖医会 サザン・リージョン病院リハビリテーション部 加治佐彩
TEL：(0993) 72-1351 FAX：(0993) 72-2128
Email：anyan.nyan.126@gmail.com

学術局(小児)

<研修報告>

令和元年度の総括です。

令和元年5月19日に鹿児島県言語聴覚士会第8回学術講演会を開催いたしました。講師は子どもの発達支援を考えるSTの会 代表の中川信子先生に「子どもの発達と言語聴覚士の役割～幼児期から学童期の多職種連携～」というテーマでご講演いただきました。

令和元年8月4日に、JDD(日本発達障害)ネットワークinかごしま2019を霧島市民会館にて開催いたしました。前日の3日には「僕は海が見たくなりました」の上映会を行いました。基調講演は「発達支援のむこうとこちら～つなぎあい ささえあい みとめあい～」というテーマで、こころとそだちのクリニックむすびめの田中康雄先生にご講演いただきました。

来年度へ向け発達部会の活動予定を組んでいます。2020年は鹿児島の子供達の支援の充実とST間の情報共有、顔の見える関係、声の聴ける関係を構築できるよう活動を検討していきます。皆さまのご協力をお願いいたします。

TASUC株式会社 タスク鹿児島教室
副教室長 西野 将太
Tel 099-828-8404 Fax 099-828-8404

学術局(新人教育)

世間ではコロナウィルスが猛威を振るい、学会や研修会も軒並み中止となっています。一日も早い終息を願うばかりです。

令和元年度下期の新人教育研修会も中止の運びとなり、参加申し込みをいただいております。ご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。今回中止となった研修会に関しては来年度上期の新人教育研修会として改めて実施したいと考えております。会場や日程調整ができましたら案内させていただきます。

さて、2020年は東京オリンピック・パラリンピックの開催に加えて、鹿児島では国体や全国障害者スポーツ大会も開催されます。4月は新しい言語聴覚士の方々も臨床をスタートする新鮮な時期です。スポーツの活気にあやかりながら、新人の皆様に役立ててもらえるよう次年度も研修会企画して参ります。

興味のある内容をどしどし石原までお伝えください！！

米盛病院 石原 禎人
Tel 0992-30-0100 Fax 0992-30-0101

学術局(生涯学習)

2019年12月15日（日）、鹿児島医療技術専門学校平川校にて、春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 内山 量史先生（日本言語聴覚士協会 副会長）をお招きし、「臨床実習」をテーマに令和元年度 専門講座を開催しました。近年の実習指導においても、ハラスメントの問題もあり、学生が自主学習を行えるスペースの確保や、日誌や課題作成など実習時間内に完了できるように実習教育者や実習施設側も、身体的・心理的配慮が求められております。いわゆるゆとり教育、さとり世代では、核家族化やコミュニティの崩壊により高齢者と接する機会が減ったということで、患者さんとも話す事が苦手な学生や、インターネットの普及によりキーワード検索は行えるが、調べるべき内容の本質を理解できておらず、考える機会も減ってきている印象です。さらに、失敗を恐れ、消極的な学生も増えてきております。今回の研修会では、臨床実習マニュアルの内容に加え、実習生の心理・社会背景や、知識・技術を習得する為に適切な指導方法についてなど、多くの資料を提供して頂き、とても分かりやすく、興味深い内容でした。参加者からは、これまでの実習指導では最近の実習生に伝わらない、出来ない事に目を向けがちでした。しかし、具体的にどのようにしたら良いのかと悩む中で、今回の研修会では、内山先生の経験やST間との連携、ノートを活用など、分かりやすく資料にまとめられており、参考になったという感想が多かったです。

私自身も、今回の研修会を通して、指導者が実習生に伝えたい本質、つまり、「気づかせる」事の大切さと、STの仕事を深さ・楽しさを実体験する事は、自分で考え、行動できるSTを育成する事にも繋がると感じました。多くのご参加ありがとうございました。

次年度も、臨床・研究・教育に役立つ研修を企画する予定です。



公益社団法人 鹿児島共済会 南風病院
医療技術部 リハビリテーション科
樋渡 健太郎
TEL : 099-226-9111 FAX : 099-805-2509



財務局

会員各位

平素より大変お世話になっております。

会費納入にもご協力頂きましてありがとうございます。

今年度の会費を納めておられない会員の方は納入をよろしくお願いいたします。

また、まだ口座登録がお済みでない会員の方はできるだけ口座登録をしていただけますようよろしくお願い致します。

2年会費が未納の方は退会扱いとなりますのでご注意ください。

口座登録申込用紙が必要な方につきましては送付いたしますのでご連絡ください。

ご不明な点は

いづろ今村病院 リハビリ室 下舞美和

TEL (099) 226-2600

FAX (099) 225-5181

kago_st@yahoo.co.jp

までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

いづろ今村病院 リハビリ室 言語聴覚士 下舞 美和

TEL (099) 226-2600 FAX (099) 225-5181

財務局メールアドレス：kago_st@yahoo.co.jp

編集男誌

令和の時代となりました。新紙幣発行の発表やラグビー日本代表の8強入り。大阪古墳群の世界遺産登録等々。喜ばしいニュースが多々ある反面、台風19号上陸や九州南部の豪雨。首里城焼失、コロナウイルス遷延によるオリンピックの延期や嵐の解散。2年に1度の診療報酬改訂、同一労働同一賃金、桜を見る会、消費増税等のニュースもあり、「激動の時代が来たな」と感じている編集者です。

最近、外車を購入し市内に庭付きの戸建てを建て、休日はテラスで家族とBBQ。月2回のゴルフラウンドとホームシアターでの映画鑑賞。笑顔のあふれるで家庭で子供の成長を見守る。という夢を見ました。

駄文となっております。大変申し訳ありません。お付き合いいただき誠にありがとうございました。皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。 吉岡